

「しまね映画塾」の塾生にアドバイスする映画監督の錦織良成さん＝益田市で



「映画塾」10周年で短編製作

島根の奥深さを捉える

島根を舞台にした「渾身 KONSHEIN」などの作品で知られる映画監督、錦織良成さん(51)が塾長を務める「しまね映画塾」。2003年の開始から10周年を迎えた今年も、小学生から会社経営者まで72人の塾生が短編映画の製作に取り組んでいる。

「もっと映画に親しんで、島根の奥深さを味わってほしい」。そんな願いを込めて毎年、活動を続けてきた地元出身の錦織さん。参加者がいなくなればやめるつもりだっ

益田で来月16日発表会

伝統芸能や自然題材に

だが、希望者は絶えず、これまでに100本以上の映画が誕生した。

今年9月14、16日に益田市で撮影台宿を開催した。県内のほか神奈川や京都、兵庫など各地から集まった塾生が10班に分かれ、監督やカメラマン、録音、キャストを担当。地元のエキストラやスタッフの協力を得ながら、憧れだった映画作りに挑んだ。

「テクニクに走らず、思いを込めた作品を作ってほしい」「協力してくれた人への礼儀が大事」。台宿冒頭に心構えを伝えた錦織さん。撮影現場では「芝居とは別に建物の外観も撮影して」「『用意スタート』の声をもらって大きく」などとアドバイスを送った。

塾生らは、地元の伝統芸能の糸操り人形や神楽、豊かな自然などを題材に、郷土への愛着や家族との絆を描いた場面を撮影。10月に編集作業をして、11月16日に益田市で発表会を開く。

「島根には日本の原型が残っている。撮影のために地元の人が一日中、家を貸してくれたら、スパーの営業中に撮影させてくれたり。ここできかない」と、錦織さんは魅力を語る。

神奈川県横須賀市から夫や高校1年の娘とともに参加した、IT会社経営の千葉理恵子さん(51)は「みんなで一つのものを作ることができて楽しい」と笑った。